

平成 23年8月1日 (月) 発行

道建協とうほく

No.45

編集 社団法人 日本道路建設業協会
東北支部 広報委員会



(東北六塊祭、2011. 7. 17)

目次

- ☆ 行事報告 1
- ☆ 対外活動・委員会活動 8
- ☆ 会員だより (株)ガイアート T・K 東北支店 . 11
- ☆ 三井住建道路(株)東北支店 . . . 12
- ☆ 随想 13

I. 行 事 報 告

第 6 3 回 支 部 通 常 総 会

日時 平成 23 年 6 月 17 日 (金) 14 : 30 ~
場所 江陽グランドホテル 4F 真珠
出席会員数 25 社 (委任状 4 社)

大会次第

1. 支部長 挨拶

2. 本部役員紹介

林田会長、氏原副会長、横田副会長

常任幹事 (石井、大西、磯、小寺、滝田、前山、三好、渡邊)

堀江常務理事

3. 林田会長 挨拶 (要旨)

- ・ 23 年度予算で公共事業費は対前年比 5 % 減と依然として厳しいが、今回の震災にみられるように国土の基盤となる幹線道路網の整備は、国民の安全・安心の確保の上で欠かせない。今後とも必要な道路整備が着実に推進され、適切な維持管理水準が保てるよう関係方面に要請していきたい。
- ・ これまで培ってきた技術と企業の総合力を生かし、官民連携によるインフラ事業への取組みや海外展開の検討道路維持管理の長期性能発注へも積極的に対応していく。
- ・ 契約入札制度については、道路建設業が適正な利益を上げながら健全に発展していけるよう、適切に対応していきたい。
- ・ 従来より環境に寄与する技術開発に取り組んできたが、中温化アスファルト合材がグリーン購入法の特典調達品目に追加されたので、積極的にその普及に取り組みたい。
- ・ 東日本大震災からの復興は長期にわたり、官民一体となって取り組むべき最重要課題であり、道路建設業の社会的責任を果たすべく、会員一丸となって復興事業の円滑な推進に協力をお願いしたい。

4. 議 事

1 号議案 平成 22 年度事業報告 (案)

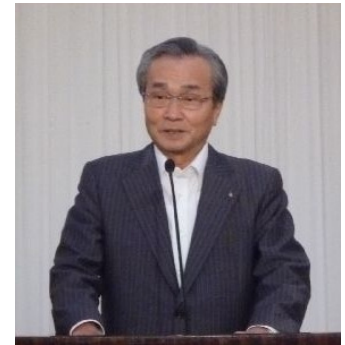
2 号議案 平成 22 年度決算 (案)

3 号議案 役員選任の追認

4 号議案 平成 23 年度事業計画 (案)

5 号議案 平成 23 年度予算 (案)

1 号～ 5 号の議案は全て、原案通り承認可決されました。



支部長あいさつ

支部長 早稲田高茂



第63回社団法人 日本道路建設業協会東北支部通常総会の開会に当たり一言ご挨拶申し上げます。

本日はお忙しいなか多数ご出席いただきありがとうございます。先ず 3.11 東日本大震災で被災された皆様にあらためてこころよりお見舞い申し上げます。

会員の皆様には、東北地方整備局との防災協定にもとづいて支部として地方自治体への資機材の提供を呼びかけたところ、多大なるご協力を賜りましたことに厚く御礼を申し上げます。本日ご臨席賜りました本部の皆さま並びに他支部の皆様からも、温かいご支援と励ましを頂きましたことをこの場をお借りしまして、御報告かた御礼を申し上げます。ほんとうにありがとうございました。

会員各社には、自らも被災者という立場の会員もいらっしゃるなか、震災後の復旧活動に鋭意取り組んでおられることに心より敬意を表します。

平成 22 年度は公共工事の大幅な削減により会員を取り巻く事業環境は一層の厳しさを増し、各社事業所の存続、雇用の維持・確保に苦勞の多い一年でした。

そのような状況のなか、支部協会活動はほぼ所期の目標を達成できました。会員の皆様には協会活動へのご支援・

ご協力にあらためて厚く感謝の意を表します。

大きな被害を受けた支部として、地域の安心・安全を守る防災道路としての道路整備への期待と関心が高まるなか、いろいろな機会をとらえてその重要性を声高に訴えていくことこそが被災支部の使命であると思います。

あらたに本部では「舗装施工管理技術者資格試験制度」事業を継承しました。この制度は道路舗装業界にとって極めて重要な試験制度であることに鑑み、その公平性・透明性の確保を図りながら運用を行なっていくための活動を支部としても取り組んでいきます。あわせて「アスファルト混合物事前審査制度」についても第三者審査機関として公平かつ的確な業務運営に努め、会員をふくむ舗装事業者の便益の増進に寄与するよう支部としても取り組みます。

復旧から復興へ確実に歩き始める中、一日も早い東北の立ち直りにむけ会員一同さらに結束を固めて、協会設立基本方針である「道路整備の推進」、「道路技術の向上」および「道路建設業の健全な発展」を図るため、積極的な活動を展開していきます。

会員の皆様の一層のご支援とご協力をお願いいたしまして、開会の挨拶とさせていただきます。

平成 23 年度 支部役員・委員会 名簿

【 支部役員名簿】

* 新任

(敬称略)

支部長	早稲田 高茂	(株)NIPPON 東北支店
幹事長	川内 正	東亜道路工業(株)東北支社
幹事	松谷 健一	大林道路(株) 東北支店
	大塚 良孝	(株)ガイアートT・K 東北支店
	菊池 達人	鹿島道路(株) 北日本支店
	* 上河 忍	(株)佐藤渡辺 東北支店
	* 清水 俊介	世紀東急工業(株)東北支店
	近藤 雅孝	大成ロテック(株)東北支社
	菅野 悟	日建工業(株)
	小野 利廣	福島県南土建工業(株)
	* 大西 國雄	前田道路(株) 東北支店
会計監事	宮村 博三	日本道路(株) 東北支店
	皆川 淳一	福田道路(株) 東北支店

東北支部の委員会組織

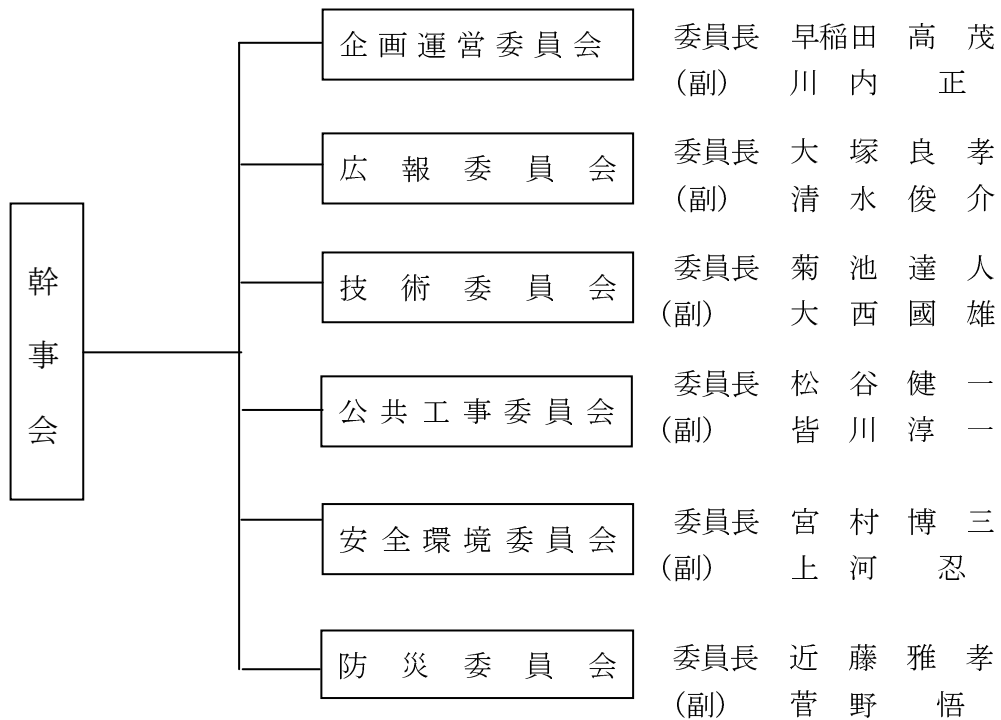


表 彰 式

総会に先立ち、協会功労者（委員会委員、技能社員）及び安全優良工事現場代人に対する表彰が行われました。協会功労者表彰は5月17日、本部総会で表彰が行なわれていますが、東北支部の受賞者を、支部総会の席で、改めて披露するというので、総会に来賓としてご臨席の本部林田会長から、直接本人に表彰状を授与していただきました。

（以下、敬称略）

①委員会委員表彰（本部表彰・6名）

広報委員会	松本 司	（大成ロテック株）
技術委員会	有路 通夫	（株佐藤渡辺）
〃	河田 久儀	（前田道路株）
公共工事委員会	下館 信男	（株N I P P O）
〃	手塚 信弘	（世紀東急工業株）
〃	渡邊 俊彦	（福田道路株）



②技能社員表彰（本部表彰・12名）

樋口 雅弘	（鹿島道路株）	結城今朝二	（鹿島道路株）
石山 沢政	（株佐藤渡辺）	添田 浩	（株佐藤渡辺）
上野 長清	（東亜道路工業株）	亀田 利一	（東亜道路工業株）
武田真知男	（東亜道路工業株）	佐々木孝志	（日本道路株）
菊地 範之	（株N I P P O）	日下藤一郎	（福田道路株）
志田 幹夫	（前田道路株）	菅原 唯光	（前田道路株）

③安全優良工事表彰（支部表彰・4名）

・片岸地区道路改良舗装工事	大成ロテック株	小野 元彦
・三瀬トンネル舗装工事	株 佐藤渡辺	岩谷 隆央
・円部地区道路改良舗装工事	日本道路 株	松井 朗浩
・相野谷交差点改良工事	日建工業 株	早坂 浩明

講話「東日本大震災」の対応状況

日 時 平成23年6月17日（金）
場 所 江陽グランドホテル 4F 真珠
講 師

国土交通省 東北地方整備局
企画部長 川 嶋 直 樹 様



例年、支部総会終了後にを行なっていましたが、今年度は状況に鑑み、懇親会を中止し講演会を企画しました。

講師には東北地方整備局の川嶋企画部長をお願いし、「東日本大震災」への対応状況の演題で、今回の地震対応の特徴と地震発生からの対応状況についてお話がありました。（概要）

①発災 ⇒ 啓開・点検 ⇒ 応急復旧・緊急復旧 ⇒ 本復旧 ⇒ 復興 自治体・被災者支援

*通常の災害復旧と違い、今回は応急復旧のための前の救援ルートを確認する「啓開」と、事後の「復興」が追加されていることと、津波により沿岸自治体が大被害を受けたことから「自治体・被災者支援」を本格的に実施したことが特徴であった。

②啓開・応急復旧

*道路、河川、港湾での対応状況の説明

（道路）「くしの歯作戦」の実施：震災直後から、災害協定に基づく地元等52チームの協力で1週間で作戦終了。

*「TEC-FORCE」（全国の整備局から結集）ピーク時63班255人が出動

被災状況調査、災害対策用機械の作業応援、Ku-SAT等の衛星通信路の確保。

③自治体・被災者支援

*全国整備局の応援で、3県27市町村に192台の災害対策機械を配備。

*リエゾン：衛星通信等を装備し、自治体ニーズを把握し、迅速に対応した。

*「国土交通省の所管にとらわれず、考えられることは全部やってほしい」という大島大臣のリーダーシップの下、市町村の救援物資の調達に着手。

*出席者の感想

「冒頭の防災ヘリ・みちのく号からの映像、名取川を遡上する津波、仙台東部海岸をなめ尽くす津波の群。そして上空からの福島第一原発の被災状況など、言葉を失い、ただ映像に見とれ、引き込まれた。国交省の初動対応は、各方面から評価が高いが、普段からの訓練・所定の手順通りに実施したと話されていたが、なかなか出来るものではない。学ぶことが非常に多かった。」



東北地方整備局から功労者表彰（東日本大震災）

7月29日、東北地方整備局主催による平成23年度国土交通行政関係功労者表彰式及び東日本大震災関係功労者表彰式が仙台国際センターで行われ、震災関係功労者として当協会が表彰されました。

震災関係功労者は全体で364社、34団体、157人となっており、協会からは早稲田支部長が出席し、東北地方整備局、徳山局長より感謝状を授与、その後記念撮影がありました。

尚、救援資機材の調達に際しては、本部・支部、及び会員各位のご支援・ご協力により、整備局からの要請にほぼ対応することが出来ました。連絡、運搬などに関わられた皆様方に深く感謝申し上げます。本当にありがとうございました



支援物資対応状況一覧表

(23年6月現在)

対 応	支 援 内 容		支 援 先
	品 名	数 量	
北陸支部	仮設トイレ	318 基	釜石市、気仙沼市、石巻市
東北支部	仮設トイレ	27 基	大槌町
	発動発電機	16 台	大槌町、石巻市
	バルーンライト・投光器類	36 台	釜石市、石巻市、南三陸町、新地町
	散水車 (0P 付)	11 台	石巻市、多賀城市
	路面清掃車 (0P 付)	1 台	多賀城市
	給水車	1 台	石巻市
中部支部	給水タンク (1m3)	4 基	石巻市
本 部	飲料水 (100ℓボトル)	500 本	石巻市
	食料・日用品	1 式	相馬市 (10 T*1、4 T*2)
東北支部	コンパネ	100 枚	大槌町
	ブルーシート	10,130 枚	田野畑村、石巻市、仙台市、
	土のう袋	116,500 枚	久慈市、田野畑村、石巻市、東松島市
	大型土のう袋	350 枚	相馬市、亶理町
	トラロープ	2,000m	仙台市
	A型バリケード	100 個	南三陸町、仙台市、山元町
	カラーコーン	320 個	南三陸町、石巻市、仙台市、相馬市
	バー	200 個	南三陸町、相馬市
	スコップ、レーキ、一輪車	140/20/20	久慈市
	保安帽・懐中電灯	40 個/50 個	久慈市
	サニーホース・チェーンソー	3 組/5 個	山元町
	燃料用 薪・炭	2 T / 150 箱	釜石市
	食料・日用品	1 式	釜石市 (4 T*2、2 T*1)

アスファルト混合物事前審査制度について

平成 23 年 4 月 1 日、東北地方整備局長よりアスファルト混合物事前審査機関の指定を受け、5 月 12 日に審査機関移行に伴う手続きのための設立委員会を開催し、審査料、確認試験機関、立入調査部会委員等について協議、承認がなされ、実質的に審査機関としての業務を開始しました。



1) アスファルト混合物事前審査制度の現況

東北地区にある混合所数は 6 県で 127 か所。

うち事前制度に参加しているのは 96 混合所で

参加率は 76% となっています。南三県はほぼ 100 % に近いが、北三県は 37~78% と加入率が低く、今後の課題となっている。

2) 23 年度審査の現況について

審査スケジュールは前任道路保全技術センターの認定期間・審査方法を継承し、1 年を四半期に分け、四半期毎に 20~25 箇所の混合所から申請される混合物を審査する計画になっています。

23 年度第 1 四半期は、5/12 の委員会終了後から、混合所の立会調査を行ない、6 月 23 日に混合物認定委員会（第 58 回）を開催し、審議の結果、6 月末日に認定証を発行することができ、認定期間に空白を生じることなく、まずは計画通りに進捗しております。

これからも、審査機関としての客観性・公明性を確保しつつ、やっていく所存です。

平成 23 年度 舗装施工管理技術者資格試験の実施

平成 22 年 10 月に、舗装施工管理技術者資格制度が、旧（財）道路保全技術センターから当協会に移管され、それに伴い平成 23 年度の資格試験は当協会の主催となり、1 月から募集を開始し、今年 2 月に受付が終了、6 月の試験実施に向けて、準備されて来ました。

東北地区は、仙台市が試験会場になっていましたが、3.11 震災の影響で当初予定していた大学がキャンセルになり、会場探しに奔走したがなかなか見つからず、内定したのは 4 月下旬と、受験票発送間際という際どいタイミングでした。

試験は 6 月 26 日（日）に、全国 10 会場で行なわれ、仙台会場では 1 級が若林区卸町サンフェスタを会場に出席者 614 名、2 級は青葉区中央・東北電子専門学校を会場に出席者 357 名で実施されました。

出席率が 1 級 66%、2 級 75% と、例年に比べ若干低く、震災の影響があったのかと思われます。



Ⅱ . 対 外 活 動

(H23/2/1～)

1) 関係機関への表敬訪問

①東北地方整備局

- ・2/14 徳山日出男局長 2/18 川瀧弘之道路部長
早稲田支部長、川内幹事長、若狭委員、事務局長
- ・6/17 徳山局長、澤田副局長、川嶋企画部長
林田会長、氏原副会長、横田副会長、早稲田支部長 ほか

②NEXCO東北支社

- ・5/12 鈴木卓夫支社長、
早稲田支部長、川内幹事長、事務局長

2)東北地方整備局関係

①「E E 東北 ’ 1 1」 実行委員会作業部会

日 時 第2回：平成23年2月16日（水）

第3回：平成23年4月15日（金）

場 所 フォレスト仙台

出席者 稲辺委員、事務局長

議 題 1)「E E 東北’ 1 1」開催について

* 「E E 東北 ’ 1 1」は6月2～3日の開催に向け、出展募集を行なっていましたが、3.11震災のため、今年度の開催は中止することになりました。

②「道路建設に係る研究会」（東北地方整備局担当部）

日 時 平成23年3月2日（水）

場 所 アパホテル 仙台勾当台公園

出席者 整備局：宮田技術調整管理官、工藤特定道路工事対策官ほか5名
支 部：五十嵐公共工事委員長、松谷副委員長 ほか7名

議 題 ①受注機会の確保について

②総合評価落札方式等について

③ユニットプライス型積算方式について

④舗装の長期保証と維持工事について

⑤竣工現場のフォロー点検について

③「平成23年度 建設資材対策東北地方連絡会」

日 時 平成23年7月29日（金）

場 所 東北地方整備局 会議室

出席者 佐藤力委員、事務局長

議 題 ①23年度建設投資見通しと主要建設資材需給見通しについて

②公共事業と関連資材のどうこうについて

③建設資材の生産・出荷状況について

④提案議題について

3) 東日本高速道路(株)東北支社関係

① 22年度東北支社舗装技術検討会 (第2回)

日 時 平成23年2月22日 (火)

出席者 (協力委員) 稲辺委員、浅田委員、河田委員

議 題 ・ 基層の補修における施工能力の向上について、試験施工等により
適用性や効果を検討する。

② 23年度東北支社管内 工事安全協議会

日 時 平成22年7月4日 (月)

場 所 ハーネル仙台

出席者 早稲田支部長

- ・ 22年度事業活動報告、23年度事業計画
- ・ 優良工事表彰
- ・ 講演、安全対策報告

4) 後援・協賛行事

① 道路講演会

日 時 平成23年3月8日 (火)

場 所 仙台市 戦災復興記念館

主 催 (社) 日本道路協会 (協賛)

次 第 「最近の道路の話題」 東北地整 川瀧弘之道路部長
「東北における橋梁保全の動向」 東北地整 赤川正一道路保全企画官
「道路土工要綱の動き」 道路土工委員会 三木博史委員

② 東日本大震災特別講演会「今こそ必要な社会資本整備」

日 時 平成23年7月7日 (木)

場 所 仙台国際センター

主 催 (社) 建設コンサルタンツ協会東北支部 (協賛)

講 演 「東日本大震災を経験して、いま私たちは」 東北工業大学名誉教授 神山 眞 氏
「列島強靱化論」 京都大学 大学院教授 藤井 聡 氏

Ⅲ. 委員会等の活動状況

(H23/2/1~)

1) 幹事会

【第1回】 日 時 平成23年4月15日 (金)

出席者 早稲田支部長、川内幹事長、幹事 11 名

- 議 事
- ① 震災支援活動の概況
 - ② 22年度決算・23年度暫定予算について
 - ③ 23年度委員長人事について

【第2回】 日 時 平成23年5月23日（月）
出席者 早稲田支部長、川内幹事長、幹事10名
議 事 ①支部総会提出議案について
②安全優良工事表彰について
③23年度 委員会委員人事について

【第3回】 日 時 平成23年7月26日（火）
出席者 早稲田支部長、川内幹事長、幹事11名
議 事 ①23年度防災協定の更新について
②アス混合物事前審査の実施状況
③舗装施工管理技術者資格試験の報告

2) 広 報 委 員 会

日 時 平成23年6月8日（水）
出席者 大塚委員長、委員10名
(伊藤、竹内、佐藤、村上、松本、木目澤、高久、小野、宮本、三澤)
議 事 ①23年度活動計画について
②支部総会 運営支援
③社会貢献活動（ロードレポーター）は継続実施

3) 公共工事委員会

日 時 平成23年2月7日（火）、3月2日（火）
出席者 五十嵐委員長、松谷副委員長、委員10名
(若狭、佐藤力、山本、秋山、手塚、熊本、新田、大山、杉崎、渡邊)
議 事 ①東北地方整備局との研究会議題について

日 時 平成23年7月19日（火）
場 所 道建協 会議室
出席者 松谷委員長、皆川副委員長、委員7名
(若狭、佐藤力、山本、熊本、秋山、吉元、阿部)
議 事 ①22年度活動状況について
②H22「道路舗装工事受注状況まとめ」について
③23年度活動計画について

4) 防 災 委 員 会 (WG)

日 時 平成23年5月31日（火）
出席者 小野寺、網代、伊藤忠、大山、浪岡、新田
議 事 ①H23 委員会活動方針の確認
②H23 災害応急対策業務に関する協定更新作業分担
③3.11 大震災 道建協対応概況報告

会員だより ガイアート T・K(株)東北支店

東日本大震災にて

東北支店 佐藤 雅 昭

3月11日の東日本大震災では、皆様方におかれましては大変な思いをされた事と思います。

私の自宅は気仙沼市にありますが、幸いにして津波の被災は免れましたが、被災された方々・場所は言葉では言い表されないほどの悲惨さです。

人間の長年培った知恵・技術を簡単に破壊した自然の猛威を目の当たりにして、ただ呆然とするばかりです。



気仙沼市本吉町小泉地区



気仙沼市魚市場付近

千年に一度の災害が、「なんで今だったのか。なんで今でなければならなかったのか。」と強く思った次第です。

しかしながら、この震災により、日本人の「絆」の強さ、深さを目の当たりにし、「日本人でよかった」と、つくづく感じました。

国、各自治体、自衛隊、警察、ボランティア、そしてご近所の皆様、すべての人に感謝いたします。

今後の復旧・復興にむけては、10年を要すると言われていますが、道路業界も一体になり、やれる事を一歩ずつ、みんなで協力し、一日でも早い復活を図りましょう。

最後に、3月11日の東日本大震災により被災された皆様に、心よりお見舞い申し上げますと共に、この大震災が、早く過去の出来事となる日が来るようお願いしたいと思います。

がんばれ日本！ がんばろう東北！

職場の紹介（事務所の引越しを通して）

東北支店事務部 井本正敏

当社の東北支店は、長年にわたって仙台市春日町付近を中心とした地域に事務所を置いておりました。

今から3年前になりますが、平成20年4月頃から、建物自体の老朽化や職場環境を何とか変えたいとの要望がにわかに高まり、引越しをする方向で事が進むこととなりました。

とはいえ、なかなかそう簡単に本店の承認をもらえるはずもなく、結果的には約1年間の時間を費やし、ようやく予算面、環境面、交通等利便性などのハードルをクリアし、その翌年の平成21年5月24日に、何と仙台市内を代表する大きな通りの1つである広瀬通りに面した場所（現在の東北支店事務所である国分町）に引越しをすることができました。

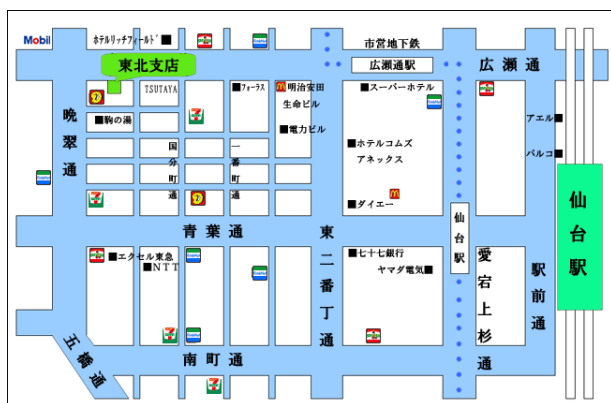
当時は（今もそうなのですが）国分町通りの繁華街や一番丁商店街の通りが、事務所からはすぐそばになり、昼食時には徒歩5分程度でいろんな店まで行けるようになり、夜はというと、会社帰りにちょっと回り道をする回数が格段に増えてしまいました。また、仙台駅までは、バスを利用しなくても、普通に徒歩で行き来できるようになりました。一方、事務所の中はというと、壁、床、天井の色は、白色を基調にしたことで、かなり明るくなっています。

今年は、3月11日の東北地方大震災の影響により、仙台七夕の開催も危ぶまれておりましたが、東北地方の復興を願い、仙台七夕前夜祭の花火大会（多少は例年よりも縮小するようですが）も行われるとのこと。きっと、当日は人がたくさん集まってきて、この広瀬通りも人で埋め尽くされ、大いににぎわい活気づくことでしょう。

また、仙台勾当台公園を中心に定禅寺通りでは、7月16日（土）、17日（日）に東北6県の代表のお祭り（「青森ねぶた祭」「秋田竿灯まつり」「盛岡さんさ祭り」「山形花笠まつり」「仙台七夕まつり」「福島わらじまつり」）が一同に参加する「六魂祭」が史上初のイベントとして開催されました。

震災の影響により、当建物もかなり傷ついており（築年が古いため）、現在かなり大規模な補修工事中ではありますが、引越して2年を過ぎてもリフレッシュ気分を依然と残しつつ、前の事務所よりも少しだけ便利になって満足してもらっている当社の職場について、ご紹介をいたしました。

当社の近くまで来られた際は、お寄り下さい。



随 想

「3. 6キロの自然のドラマ」

幹 事 長 川 内 正

(東亜道路工業(株) 東北支社)



5月下旬から早朝ウォーキングを始めた。
近くの梅田川の堤防を約3.6キロ歩いている。
川幅約40メートルの自然にはいろいろな動物が生活している。
出迎えてくれるのが小さな野鳥で、小枝やヨシの上の方でくちばしを上に向けて
「ピーチクパーチク」、自己主張もにぎやかだ。
川面にはカモが、つがいでいるのが多い。5月末頃には親ガモのすぐ後を
一塊の小さな雛が5～6羽折り重なるように必死に泳いでいた。
無事に育ってほしいと願う。
雨上がりハクセキレイがえさをとっている。
よく見ると濡れた路面を小さなミミズやカタツムリがはっていた。
ツバメもえさ取りに夢中で、歩いていると「ハッ」とするときがある。
シラサギが浅瀬でえさをついばんでいる。小魚でも捕ったのかな。
キジの雄も1羽いた。水際で草藪から姿を出し甲高い鳴き声を上げていた。
川の少し深いところには鯉が何匹も悠然と泳いでいる。錦鯉もいた。
6月初旬にはウグイの産卵に出会った。腹部に赤い条線のある40～50匹が浅瀬で
重なるように群れ、1メートル四方の水が黒く盛り上がって見えた。
7月にはいと付近のマンションや民家の庭にはキュウリやナスが、堤防斜面には
アジサイの花が一層映えてきた。
これからも季節を重ねて楽しんでいきたい。

(平成23年7月記)



随 想



北海道からみた東北人

公共工事委員長 松 谷 健 一

(大林道路株式会社 東北支店)

私、生まれも育ちも北海道です。

ただし、入社後は、関東、中部、信越、北海道と渡り、現在、この東北、仙台の地に住まいして10年になりました。

北海道は開拓が始まって未だ150年にも満たない歴史しかありません。

このような北海道から、各地を回り、ここ東北で暮らして感じたことについて書きます。

私、30年ほど前にも6年間ほど福島県郡山に住み、2人の娘はここで生まれました。

上の娘が5歳くらいのとき、近所の年上の子供たちに遊んでもらっているとき、

「アキちゃん（長女の名）は婿取りだね」という声に、驚きました。

北海道は歴史が浅いせいか、「家」への帰属意識はさほど高くなく、私自身、婿をもらうなど考えられませんが、

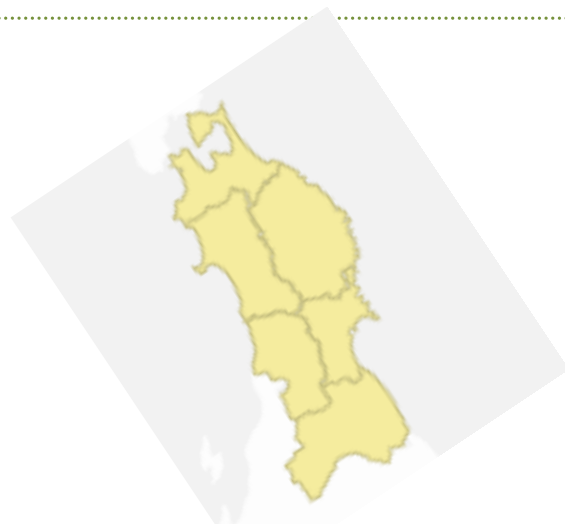
この地では、大人から小さな子供に至るまでそれが常識でありました。

また仙台に来てからは東北各県をまわり、自分の帰属する「藩」の自慢、同じ県のなかでの他藩との対立などを見聞きするにつけ、驚くとともに、歴史の浅い北海道人から見ると、ある種うらやましさを感しました。

これら「家」「藩」に対する帰属意識は

よく言うと、団結力、助け合い。一方、排他的、閉鎖的な面も覗えます。

今後の、震災復興に向け、これらの気質が良い形で後押しとなることを祈らざるをえません。



編集後記

担当：松本 司（大成ロテック㈱東北支社）

木目澤 祐二（東亜道路工業㈱東北支社）

大震災から早くも四ヶ月が過ぎ、津波が襲った沿岸部も少しずつ復旧はじめていますが、復興はまだまだこれからです。

本当の元気な町に戻れるよう念じるばかりです。

そんななか、元気な東北にしようと、7月16日、17日に開催した東北六魂祭にでかけました。

日本民族の歴史と伝統の素晴らしさをあらためて感じることができました。

身動きができないほどの混雑にビックリしましたが、熱い思いを持って被災地を応援したいと思う全国の人たちが、来場したものと思います。

その思いを胸に、ともに1歩1歩前へ！負けないぞ日本！！



がんばろう 東北！！